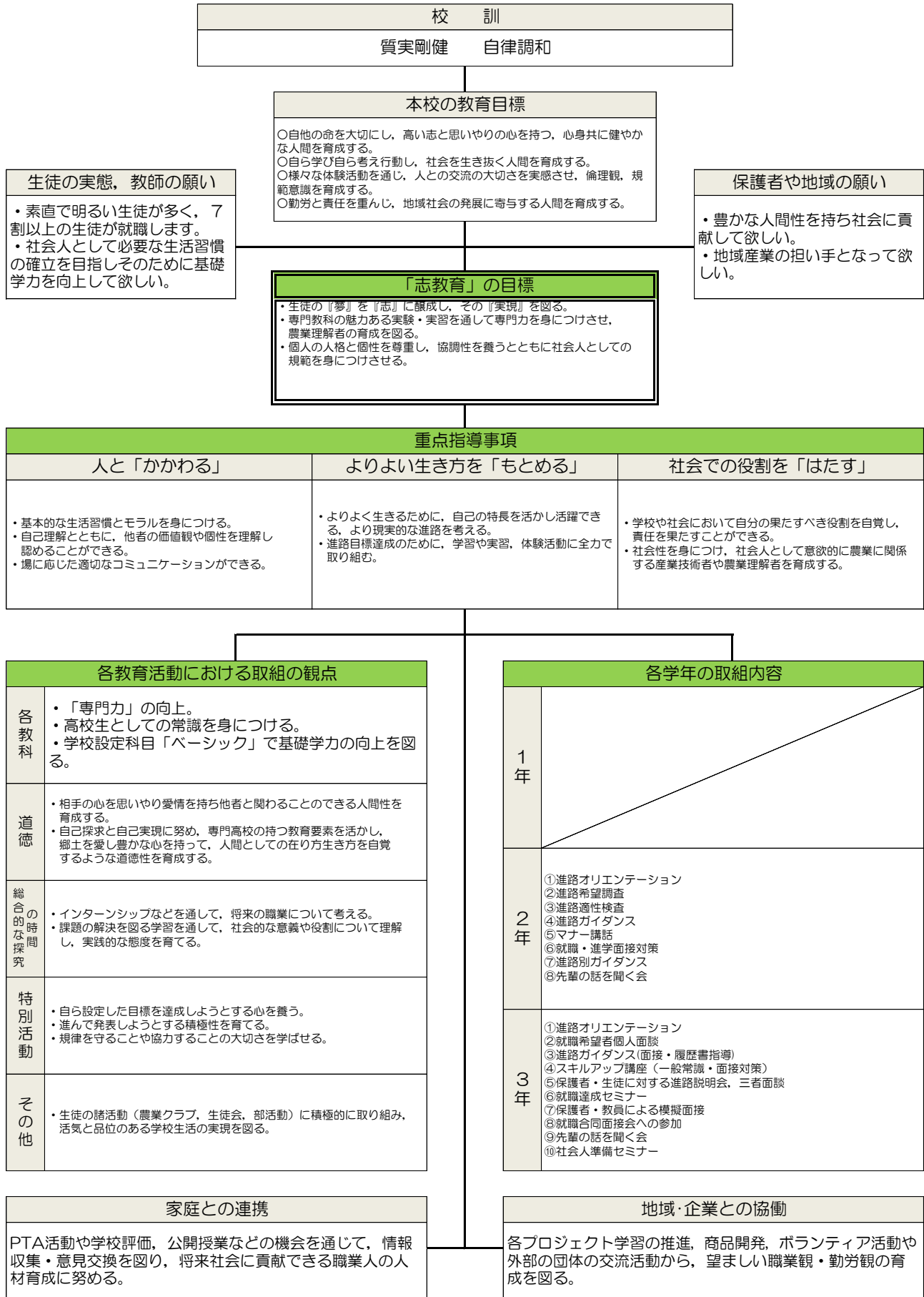




令和5年度 宮城県柴田農林高等学校「志教育」年間指導計画

3つの視点			かかわる	もどめる	はたす	かかわる	もどめる	はたす	かかわる	もどめる	はたす	かかわる	もどめる	はたす	かかわる	もどめる	はたす			
各教科指導目標	国語	○		○	地理歴史	○	○		公民		○	○	数学		○	○	理科		○	○
	言語と、自国の文化に対する理解を深め、自らの行動指針を決める思考力と判断力、他者を思いやる想像力を伸ばすための言語能力を養う。				日本及び世界各国の風土や文化、歴史を理解することで、国際社会における自らの役割を考え、地理的・歴史的背景から積極的に参画する意識を養う。				現代の日本を形作る政治・経済を学ぶことで、現代日本を形作る主権者としての意識を養う。				数学的な見方や考え方に触れることで、日常の様々な問題を解決するための考え方を身につける。				科学的な見方や考え方を養い、様々な事象について科学的に正しい情報を判断する力を身につける。			
	保健体育	○	○		芸術	○	○		外国語	○		○	家庭	○		○	情報	○		○
	心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康の保持増進を図り、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。				美術の基本的な幅広い作品制作を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、豊かな情操を養う。				外国語を学ぶことによって、外国への興味、関心を高める。また主体的、自律的に他者とのコミュニケーションを図ることができる能力、態度を育成する。				生活の営みに係る実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と共によりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。				情報化が社会に及ぼす影響を理解させるとともに、情報技術を適切に活用する能力を養い、社会の情報化に対応できる態度を育てる。			
	農業	○		○																
農業の各分野に対する基礎・基本な知識と技術を習得させるとともに、これからの農業における課題を解決できる能力と態度を育てる。																				
学年共通						かかわる	もどめる	はたす	各学年指導目標											
指導内容	①あいさつをしよう				◎	○	○	1年												
	②時間を守ろう				○		◎													
	③制服を正しく着用しよう				○		◎	2年	(1)時間厳守の意識を持たせる。(欠席・遅刻・早退を最小限に) (2)あいさつ・礼儀・言葉遣いを正しくさせる。(社会人の常識を植え付ける) (3)自己理解を深めさせるとともに、自らの進路を意識させる。(進路実現への道筋を付ける)											
	④授業の準備をしよう					○	◎													
	⑤ノートを書こう						○	◎	3年	(1-①)時間厳守・締切厳守の意識を持たせる(欠席・遅刻・早退を最小限に。未履修「0ゼロ」)。 (1-②)あいさつ・礼儀・言葉遣い・身なりを正しくさせる(進路実現できる身だしなみを)。 (2)進路活動に必要な学力や学習習慣を身に付けさせる(欠点を最小限に。未修得「0ゼロ」)。 (3)生徒の特性やニーズに応じた進路の実現を目指す(進路達成「1ワンダフル(100%)」)。										
	⑥スキルアップ学習の徹底						○	◎												
指導内容					ねらい			指導教科等			実施時期	時数	かかわる	もどめる	はたす					
1年												4, 9, 2月	3							
2年	キャリアパスポート	学校生活を通して見通しを持ち、振り返るとともに将来への展望を図るものとする。				特別活動			4, 9, 2月	3		○								
	進路適性検査・職業理解	自己を理解し、様々な職業の情報を集め自らの職業選択を探索する。				特別活動			9月	1	○									
	進路ガイダンス(体験型)	職業体験学習を通して、勤労観や職業観を育成する。				特別活動			9月	3	○	○	◎							
	進路ガイダンス(講話)	自分の進路を探索する上で、具体的な説明により、進路意識の高揚を図る。				特別活動			9・3月	4		◎								
	3年生の話を聞く会	自分の進路を探索する上で、具体的な説明により、進路意識の高揚を図る。				特別活動			2月	1	○	○								
	スキルアップ学習	基本的な学習の確認や求人票、パンフレットから情報を得て今後の参考にする。				特別活動			4, 6月	2			○							
3年	キャリアパスポート	学校生活を通して見通しを持ち、振り返るとともに将来への展望を図るものとする。				特別活動			4, 9, 2月	3			○							
	スキルアップ学習	基本的な学習の確認や求人票、パンフレットから情報を得て今後の参考にする。				特別活動			4, 6月	2			○							
	オープンキャンパス及び企業見学	希望進路先を訪問し、最終進路決定の参考にする。				特別活動			7月	3		◎	○							
	フォローアップセミナー	卒業後の進路先で、より良いスタートがきれるようにマナー講習等を受け卒業後の参考にする。				特別活動			12月	2	○	◎	○							
										合計時数	24									

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
活動名	青根演習林産のメープルシロップを活用した新商品開発
教科・領域等	農業科 ・ 課題研究（総合的な探求の時間）および総合実習
活動学年等	2・3学年
ねらい	専門科目の授業の中で学んだ森林や林業の抱える課題のうち、自分達の興味・関心のあるテーマを設定し、課題解決に向けた林産物の開発、商品企画・デザイン、企業との連携などの実践活動をとおり、自己有用感や自己肯定感を高めるとともに、コミュニケーション能力、情報活用能力、職業観や勤労観を育成し、関連産業や地域の担い手となる人材を育成する。また、活動をとおり地域や地域産業の活性化の一助とする。

【実践内容】

(1) 動機と背景

宮城県の山元立木価格は昭和55年をピークに下降し、現在はピーク時の6分の1以下である。林業産出額をみると、木材価格の下降にあわせるように特用林産物であるキノコの産出額が増え、林業にとって木材以外の収入も重要となっている。本校の森林環境科森林専攻も林業収入の増やすために様々な林産物の開発に取り組んできた。

(2) 本年度の目標

演習林のカエデ属の樹液からつくるメープルシロップは「森の6次化」の取り組みの中の1つである。平成29年の春に初めて試作し、平成30年度産のものを1年後に細菌検査（消費期限の設定）と放射線量の測定を実施し、令和1年度から販売がスタートした。本年度は、先輩達から引き継いだメープルシロップをより多くの人に知ってもらい、手に取ってもらえるように、メープルシロップを活用した新しい商品の開発に挑戦した。

(3) 活動内容

①メープルシロップづくり

原料となる樹液が出るのは夜間の最低気温がマイナス、昼間の最高気温が10℃以下という条件を満たす時期である。演習林のある宮城県川崎町青根でこの条件を満たすのは2月上旬から3月上旬の間であり、今年は2月6日から3月3日まで採集した。樹液の採集方法やメープルシロップづくりの方法や様子は以下の通りである。今年は30ml 小瓶（お試し用）、120mlの中瓶（リピーター用）、450ml（プロ用）の大瓶の3種類を作製した。

樹液採集の方法 ① 木に直径11mm、深さ5cmの穴を開ける ② その穴にスパイルを埋め込む ③ ホースとスパイルをつなぐ ④ さらに回収容器とホースをつなぐ ⑤ 容器を固定して完成	メープルシロップづくり（濃縮） 1. 約5分の1程度まで、薪ストーブで煮詰める。 2. ろ過 3. 糖度66%以上になるまで仕上げる。煮詰めました。	メープルシロップづくり（瓶詰めと殺菌） 腐ったり、カビが生えたりしないように、30分煮沸。	メープルシロップ完成 中瓶（120ml）「リピーター」 小瓶（30ml）「お試し」 大瓶（450ml）「プロ」
---	--	---	---

②新商品の開発（企業連携）

出来上がったメープルシロップを使って、クッキー、キャンディの2つに挑戦した。

ア. メープルクッキー

演習林に隣接している「焼菓子の店Studio Fahren 青根の家」に相談し、ご協力をいただいた。メープルの香りがして優しい甘さのクッキーが完成し、お客様からも好評をいただき、すぐに完売した。

イ. メープルキャンディ

本校のある大河原町にある「蔵王昔飴本舗」に相談し、ご協力をいただいた。試作品第1号は「メープルシロップの味がしない」という評価であった。その後、メープルの風味を出すためにメープルシロップをペースト状にし、メープルシロップの使用量を2倍に増やした試作品第2号が完成した。文化祭で一般の方々の試食の結果、「香り」や「味」で高評価をいただいた。今後、商品化を進めていく。

新商品「メープルクッキー」 焼菓子の店Studio Fahren 様 6月 数量・期間限定商品として販売！！
--

新商品「メープルキャンディ」 蔵王昔飴本舗 様 ・試作品と打合せの様子 試作品を文化祭でお客様に試食いただきアンケートを実施。好評を得た。

(4) 活動の成果とまとめ

メープルシロップを使った新商品の開発を目指し、多くの方々の協力をいただき、クッキー、キャンディの商品開発に取り組むことが出来た。学校の商品としての販売はまだ出来ていないが、先輩達に取り組んできたメープルシロップの可能性を広げ、林業の新しい収入源としても期待出来る。そして、メープルシロップを通して地域の方々や企業の方々からたくさんの温かい支援をいただき、生徒達にとって大きな励みになり、自分達にも何か出来ることがあるという自信にもなった。

これらの活動についてまとめ、発表資料を作成し、農業クラブの校内プロジェクト発表会で報告した。その結果学校代表となり、宮城県学校農業クラブ連盟プロジェクト発表会に参加し優秀賞をいただいた。また、全国林業研究グループ連絡協議会が主催する「全国がんばる林業高校生表彰」(地域活動・研究部門)において優秀賞をいただいた。この活動実践をとおして森林と林業に魅力を感じ、専攻生 18 名のうち 4 名が関連産業への就職を選択した。これからも森の恵みをたくさんの人に届け、その魅力や大切さを伝えながら、地域への貢献と自らの進路へつながっていく活動に取り組んでいきたい。